

財団法人

環日本海 環境協力センター

Northwest Pacific Region
Environmental
Cooperation Center

国際協力で、海洋環境保全へ

設立の目的

日本海及び黄海は、その沿岸諸国にとって、漁業資源、海上交通、レクリエーションの場等の恩恵をもたらしている共有財産である。

しかしながら、近年、沿岸地域では、工業化の進展や都市部への人口集中、漁業や海上交通による利用の拡大等に伴い、今後の海洋環境の悪化が予想されるほか、石油タンカーの沈没等の海難事故が、増加傾向にあり、豊かな漁業資源や沿岸地域の観光等に重大な被害を及ぼすことが懸念されているところである。

環日本海時代の到来を迎え、このようなことから、海洋汚染を防止し、環境の保全を図っていくことは、沿岸に居住する者にとって共通の使命であり、そのため

には、沿岸諸国や地域、各種の団体等が連携協力し、すべての主体の参加のもとに国際的な取り組みとして各種の事業を展開していくべきであるとともに、それらに対応するための拠点づくりが必要であると考えられる。

このため、財団法人環日本海環境協力センターでは、現在及び将来の世代の人間が日本海及び黄海がもたらす健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受するとともに、良好な環境が将来にわたって維持されるよう、沿岸諸国や地域等との連携協力のもとに、沿岸地域の流域管理をも視野に入れた日本海及び黄海における海洋環境保全に寄与しようとするものである。

組織概要

名称	財団法人環日本海環境協力センター Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center (略称 NPEC(エヌペック))
所在地	富山県富山市牛島新町5番5号 タワートリプルワン 6F (射水分室) 射水市中太閤山17番1号 富山県環境科学センター内
会長	平野 敏行
理事長	鈴木 基之
設立	1998年9月1日
基本財産	250,000千円

沿革

1997年4月	「環日本海環境協力センター」を設立 事務所を富山市安住町7番18号に設置
1998年6月	「財団法人環日本海環境協力センター」 設立発起人会を開催
1998年9月	環境省から「財団法人環日本海環境協力センター」 として設立許可
1999年4月	北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)政府間 会合において、「特殊モニタリング・沿岸環境評価 地域活動センター(CEARAC)」に指定
2001年9月	事務所を富山市牛島新町5番5号に移転

組織図



シンポジウム等の開催

<2007年度>

- ・北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま
- ・北東アジア青少年環境保全リーダー会議
- ・海辺の漂着物調査検討会
- ・海の理解促進講習会
- ・海洋環境保全シンポジウム
- ・第1回沿岸環境評価国際ワークショップ

<2006年度>

- ・北東アジア青少年環境シンポジウム
- ・海辺の漂着物調査検討会
- ・国際海岸クリーンアップ&ワークショップ in 山形
- ・第2回北西太平洋地域海行動計画海洋ごみワークショップ
- ・第4回北西太平洋地域における海洋環境のリモートセンシングに関する国際ワークショップ

<2005年度>

- ・北東アジア青少年環境シンポジウム
- ・海辺の漂着物調査検討会
- ・海洋ごみ問題シンポジウム in とやま
- ・第1回北西太平洋地域における海洋ごみに関する国際ワークショップ
- ・第1回北西太平洋地域における赤潮/HABに関する国際ワークショップ

報告書等

<2007年度>

- ・第1回沿岸環境評価国際ワークショップ要旨集
- ・CEARACフォーカルポイント会議報告書（第5回、第6回）
- ・北西太平洋地域におけるHAB対策事例集
- ・北西太平洋地域における衛星データを用いた富栄養化モニタリングガイドライン
- ・海洋ごみリサイクル可能性調査報告書
- ・北西太平洋地域海行動計画活動推進事業報告書
- ・2006年度海辺の漂着物調査報告書

<2006年度>

- ・第2回北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）海洋ごみワークショップ報告書
- ・第4回北西太平洋地域における海洋環境のリモートセンシングワークショップ要旨集
- ・第3回NOWPAPワーキンググループ3会議報告書
- ・第3回NOWPAPワーキンググループ4会議報告書
- ・海洋環境モニタリングにおけるバイオアッセイの活用に関する調査報告書
- ・北西太平洋地域海行動計画活動推進事業報告書
- ・2005年度海辺の漂着物調査報告書

<2005年度>

- ・北西太平洋地域における海洋環境リモートセンシングに関する報告書（統合・国別）
- ・北西太平洋地域におけるHABに関する報告書（統合・国別）
- ・第1回北西太平洋地域における海洋ごみに関する国際ワークショップ要旨集
- ・第1回北西太平洋地域における赤潮/HABに関する国際ワークショップ要旨集
- ・CEARACフォーカルポイント会議報告書（第3回、第4回）
- ・2004年度海辺の漂着物調査報告書

環日本海地域のネットワークづくり

国際交流・人材育成に関する事業の概要

北西太平洋(日本海及び黄海)の海洋環境を保全していくためには、沿岸の各国・地域が、連携・協力して取り組んでいくことが大変重要です。このため、沿岸の各国・地域の相互の対話と交流を促進するための各種事業を実施しています。

また、北西太平洋沿岸の各国・自治体がそれぞれ又は共同して海洋環境の保全施策を企画実施するのを支援するため、環境関連情報の収集・提供、人材の育成や人的ネットワークづくりを推進しています。



環日本海諸国図(通称:逆さ地図)
[この地図は富山県が作成した地図を転載したものです。(平6総使第76号)]

国際交流・人材育成に関する事業の活動内容

1 海洋環境保全に関する国際会議の開催

北西太平洋の海洋環境の状況やその保全のための取組に関する認識を深めたり、意見交換をするため、富山県等と連携して各種の国際会議を開催しています。



北東アジア環境パートナーズフォーラムinとやま
(2007年、富山県)

3 沿岸地域との環境協力の推進

富山県が沿岸地域の地方自治体との環境協力事業を効果的に推進するため、環境保全分野の情報を収集し、事業実施に向けての意見交換等を行っています。NPECはその運営を行っています。



国際環境フォーラム全体会議での講演
(2007年、ロシア沿海地方)

2 「北東アジア地域自治体連合環境分科委員会」の推進

「北東アジア地域自治体連合(通称:NEAR)」の環境分科委員会において、富山県がコーディネイト自治体に出選され、その運営業務をNPECが行っています。



第8回環境分科委員会
(2007年、富山県)

4 環境教育の推進

北東アジア地域の青少年を対象としたシンポジウムや会議を開催しています。2008年度からは、体験学習に重点を置き、自ら考え行動できる人材を育成する「環境体験プログラム」を実施します。



北東アジア青少年環境保全リーダー会議
(2007年、富山県)

環日本海の環境保全に向けた調査研究

環境保全に関する調査研究の概要

北西太平洋及びその周辺地域の環境保全を的確に進めていくためには、現状の実態把握や汚染等のメカニズムに関する調査研究を実施するとともに、正確で広範な科学的知見を得ることが必要です。

このため、沿岸の各国・地域の調査研究機関等の協力も得ながら、各種の調査研究を実施しています。



中国遼寧省との水質環境共同調査

環境保全に関する調査研究の活動内容

1 中国遼寧省との環境共同調査研究

中国遼寧省と共同で、1998～2007年度にわたり、遼河上流部や遼東湾等の水質汚濁の実態把握や原因分析を行いました。

2008年度からは、近年、中国で黄砂(砂塵嵐)や光化学スモッグなどの大気汚染問題が深刻化していることから、その実態把握のため大気環境共同調査研究に取り組んでいます。



大気環境共同調査

また、北東アジア地域の各自治体、経済界、学界と連携して、黄砂の視程調査を実施するとともに、そのデータを共有し、協力して対策に取り組んでいくためのネットワークづくりを進めています。

3 富山湾プロジェクトの推進

人工衛星からの海洋環境データを利用した沿岸環境モニタリング手法の開発に向けて、県内の研究機関と連携し、水質データと衛星データを取得し、富栄養化モニタリングガイドラインを作成しました。現在、富栄養化状況評価手順書の開発に向けた調査研究を行っています。



富山湾プロジェクトによる水質調査

2 環境技術者の研修

沿岸諸国を始めとする海外からの研修員に対して、国、県および関係機関などの協力のもとに、環境に関する分析測定技術や環境管理などに関する研修を実施しています。



JICA研修生の受け入れ
(2007年、中国遼寧省2名)

4 衛星リモートセンシングデータの提供

2002年に環境省がNOWPAPの活動を推進する目的で富山県環境科学センター内に設置した「環日本海海洋環境ウォッチシステム」により、NOWPAP地域のクロロフィルa濃度(植物プランクトン濃度の指標)、海表面水温等のデータをホームページ上にて提供しています。



環日本海海洋環境ウォッチシステムホームページ
海のカレンダー

海洋ごみ問題の解決に向けて

漂流・漂着ごみ対策推進事業の概要

漂流・漂着ごみは、生態系や海浜景観への影響など国際的な海洋環境問題となっています。

このため、NPECが培ってきた沿岸諸国とのネットワークも活用し、国際的な調査を含む、漂流・漂着ごみ対策を推進します。



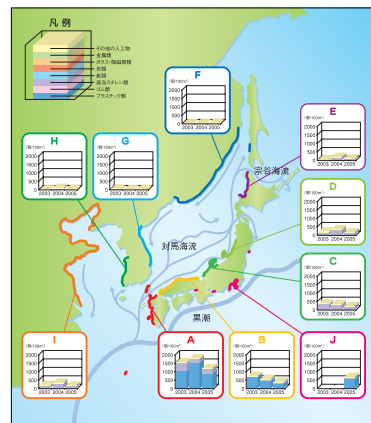
子供たちによる海辺の漂着物調査(ロシア)

漂流・漂着ごみ対策推進事業の活動内容

1 海洋ごみモニタリング調査(1996年度～)

環日本海海域等の漂流・漂着ごみについて、科学的な手法により、国際的な実態調査を行っています。

日本、中国、韓国及びロシアの地方自治体やNGO等の参加を得て、海辺に打上げられたプラスチック、紙類等の個数・重量を調査するもので、沿岸住民の「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心」を育むことにも資するものです。



漂着物調査結果

2 海洋ごみ問題に関する普及啓発

調査結果の報告書や概要版を作成しているほか、各種の検討会、講演会の開催により、関係者間で情報・意見交換するとともに、ひろく、海洋ごみ問題について普及啓発しています。

また、多くの市民が海の環境保全について関心を高めるため、漂着物アート展を開催しています。



漂着物アート展作品例
於：氷見市海浜植物園
協力：富山大学芸術文化学部

3 海洋ごみ削減戦略の検討

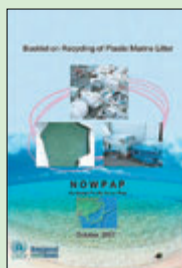
国内の海洋ごみに関する海岸管理体制の課題を整理するため、学識者からなる検討組織を設置し、沿岸諸国の海洋ごみに関する管理状況や法制度の状況を調査するなど中長期的な解決方策について検討を進めています。

～NOWPAP海洋ごみ活動に対する貢献～

NPECで作成してきた報告書や普及啓発資材は、NOWPAPにおける海洋ごみ対策促進のために利用されています。



海洋ごみパンフレット



リサイクル事例集

また、NPECの海洋ごみモニタリング調査の経験をもとに作成された海辺の海洋ごみモニタリングガイドラインを利用した海洋ごみ調査が日本海・黄海沿岸域で実施されます。NPECもこの調査に参加し、4か国の海洋ごみの実態把握に貢献していきます。



モニタリングガイドライン

北西太平洋地域海行動計画の推進

NOWPAP地域活動センター(CEARAC)の役割

NPECは、1999年に北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)の特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター(CEARAC)の指定を受けました。

NPECに2002年に設置されたCEARACは、日本海及び黄海の環境保全に向けて、中国、韓国及びロシアと協力して次の課題に取り組んでいます。

- 人工衛星によるリモートセンシング技術の活用
- 赤潮などの有害藻類の増殖(HAB)対策
- 海洋ごみ問題への対策

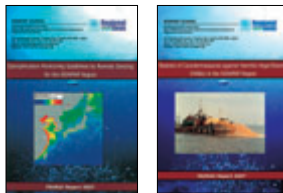


NOWPAPの地理的範囲

NOWPAP地域活動センター(CEARAC)の活動

1 ガイドラインの作成

日本海の海洋環境保全のための最新の科学的な知見を集めたガイドラインや対策事例集を作成しています。



富栄養化モニタリングガイドライン HAB対策事例集

2 国際的な専門家会合の開催

日本、中国、韓国、ロシアなどの専門家を集めたワークショップやシンポジウムを定期的で開催しています。



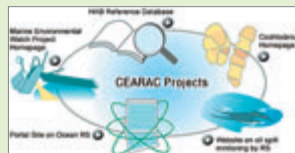
海洋ごみワークショップ (2007年、富山県)



沿岸環境評価国際ワークショップ (2008年、富山県)

3 活動成果の発信

英語によるウェブサイトを設置し、CEARACの活動の成果を広く世界に発信しているほか、各国語のパンフレットを作成するなど、専門的な内容を分かりやすく普及啓発しています。



CEARACのウェブサイト



コクロディニウムパンフレット

さらに、衛星リモートセンシングデータ活用のためのトレーニングを、NOWPAP各国で定期的で開催しています。

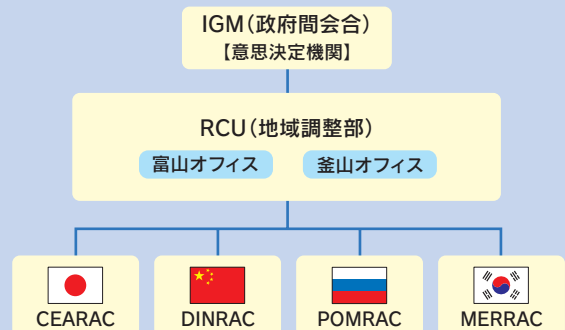


リモートセンシングデータ解析トレーニング(2007年、長崎県)

～北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)について～

「北西太平洋地域における海洋及び沿岸環境の保全・管理・開発のための行動計画(NOWPAP)」は、国連環境計画(UNEP)が提唱する地域海行動計画の一つであり、日本海及び黄海の環境保全を目的として、1994年に日本、中国、韓国及びロシアの4か国により発足されました。

NOWPAPの活動を推進するため、各国に一つずつ地域活動センター(RAC)が設置されています。また、NOWPAPの本部機能を持っている地域調整部(RCU)は、富山市と釜山市(韓国)に2004年に設置されました。



各種広報・啓発活動

国際環境協カインターン・ボランティアプログラム

将来の国際環境協力分野における人材の育成を図るとともに、大学等の研究機関との連携強化や北東アジア地域の海洋環境保全に関する取り組みへの理解の促進を図ることを目的として、インターンやボランティアの受け入れを行っています。



インターン研修生による漂着物調査の指導

環日本海環境保全啓発事業

次代を担う子どもを始め、住民を対象に環日本海環境協力に対する取り組みを紹介し、海洋環境保全意識の醸成を図ることを目的として、「環日本海・環境保全いざない教室」を開催しています。(随時受付中)



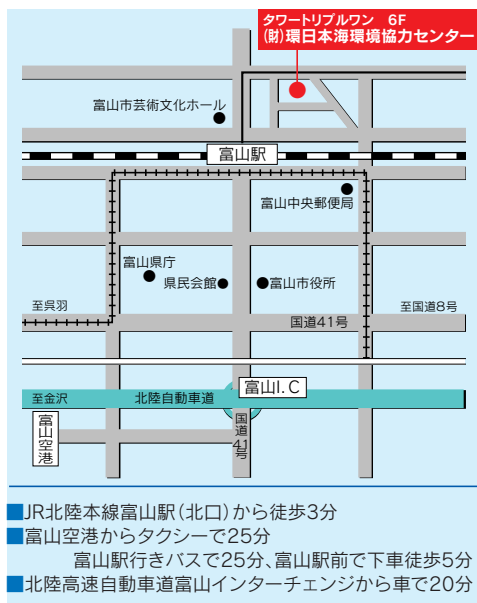
「いざない教室」での講義

ホームページによる情報発信等

各種の調査報告書の発行やホームページによる環境情報の発信のほか、各種イベントへの積極的な参加等により、海洋環境の保全に関するさまざまな情報提供や当財団の活動状況の普及啓発を行っています。



「とやま環境フェア」への出展



財団法人 環日本海環境協力センター Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5 タワートリプルワン6F
 TEL.076-445-1571 FAX.076-445-1581
<http://www.npec.or.jp>

射水分室 〒939-0363 射水市中太閤山17-1 富山県環境科学センター内
 TEL.0766-56-2871 FAX.0766-56-2872